

指示があるまで、このページをよく読んで待ちなさい。指示があるまで、この問題用紙を開いてはいけません。

I 受験に際しての注意

- 1 問題用紙は一ページ（表紙を除く）から十九ページまでである。
- 2 問題の内容についての質問には、いっさい応じない。それ以外のことについて尋ねたことがあれば、手をあげて監督者に聞くこと。
- 3 監督者の「はじめ」の合図で始め、「やめ」の合図ですぐやめること。
- 4 解答用紙が折れ曲がったり、破れたり、汚れたりした場合には、手をあげて監督者に申し出ること。

II 解答記入上の注意

- 1 すべてマーク方式で解答を記入すること。
- 2 マークは必ずHBの黒鉛筆を使用して記入すること。ボールペン、万年筆、サインペン等を用いてはいけない。
- 3 答えは、すべて各問題の指示にしたがって解答欄にマークすること。
- 4 一度マークしたものを訂正するときは、プラスチック消しゴムで完全に消してからマークしなおすこと。消して出たカスはきれいに払っておくこと。
- 5 次の場合は、いずれも誤答となるから特に注意すること。
 - (1) マークの仕方が悪かった場合。（特にマーク欄が塗りつぶされていないなかったり、外側に少しでもはみ出した場合）
 - (2) 問題が要求している以上に余分な答えをマークした場合。
 - (3) マークすべきところ以外に印をつけたり、汚したりした場合。特に枠内は絶対に汚さないこと。
 - (4) 訂正の場合の消し方が不十分な場合。

III 氏名等の記入上の注意

- 1 問題用紙と解答用紙の両方の所定欄に、漢字で氏名を、算用数字で受験番号をそれぞれ記入すること。
- 2 解答用紙の左側にある受験番号をマークすること。

氏 名	
-----	--

受験番号					
------	--	--	--	--	--

一 次の各問いに答えなさい。

問一 漢字の読みが間違っているものを選び、番号をマークしなさい。

- ① 礼賛（らいさん） ② 遵守（じゅんしゅ）
③ 反故（ほんこ） ④ 言質（げんしつ）

問二 送り仮名の間違っているものを選び、番号をマークしなさい。

- ① 育くむ ② 危ない ③ 速やか ④ 逆らう

問三 「過去をセイサンする」の傍線部の漢字として正しいものを選び、番号をマークしなさい。

- ① 精算 ② 清算 ③ 生産 ④ 成算

問四 「初めは勢いがよいが、終わりのほうになると振るわないこと」の意味となる四字熟語を選び、番号をマークしなさい。

- ① 鶏口牛後 ② 羊頭狗肉
③ 四面楚歌 ④ 竜頭蛇尾

問五 ☐ に同じ漢字が入るものを選び、番号をマークしなさい。

- ① ☐ 材 ☐ 所
③ ☐ 転 ☐ 倒
② ☐ 寒 ☐ 温
④ ☐ 日 ☐ 秋

問六 熟語の組み立てが異なるものを選び、番号をマークしなさい。

- ① 永久 ② 洗顔 ③ 登山 ④ 乗馬

問七 「のれんに（ ）押し」の（ ）に入る言葉を選び、番号をマークしなさい。

- ① 頭 ② 足 ③ 腕 ④ 腹

問八 敬語が正しく用いられているものを選び、番号をマークしなさい。

- ① 係の者にうかがってください。
② いただいたお手紙を拝見する。
③ 先生が申しあげたとおりにしよう。
④ 先輩は発表会に参りましたか。

問九 「準」の部首を選び、番号をマークしなさい。

- ① さんずい ② じゅう ③ ふるとり ④ いち

問十 森鷗外作品として適切なものを選び、番号をマークしなさい。

- ① 「人間失格」 ② 「舞姫」
③ 「蜘蛛の糸」 ④ 「伊豆の踊子」

二 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

宮崎作品は、宮崎駿という人柄の表現でもあるが、それはアニメという方法を通して、結局は日本の伝統を語ることになる。方法自体が日本的であり、語られる内容が日本的だからである。『千と千尋』の魔女は、姿かたちが西洋の魔女だが、^①そういうものを取り込んでしまうのも日本文化だと、だれでも知っている。しかもあの婆さんの部屋に行くまでの廊下の調度といえ、どう見ても中国の花瓶なのである。このゴタ混ぜが日本文化でなくて、なにが日本文化か。

^② 伝統文化といえ、能だ歌舞伎だ茶の湯だという。それはそれでいい。しかしゴタ混ぜもまた、日本文化そのものである。能衣装を子細に見れば、どう見ても中近東由来じゃないかという、派手な唐草模様のパッチだったりする。茶の湯の袱紗^{ふくさ}さばきは、カトリックの聖体拝受と同じだという説が以前からある。知的所有権などというものは、^③特殊な時代の、特殊な世界の産物である。独創性とか、個性とかいうが、真の独創なら、他人はそれを理解できない。他人に理解できるなら、それはべつに独創ではない。いずれだれかが考えるはずのこと、それをただか最初^④に思いついたというだけのことだからである。個性もまた同じ。まったく個性的ということは、他人の理解を超越することである。その意味で「個性的」な人に出会いたいなら、精神病院に行った方が早い。

普遍性というのは、深さを備えた共通性である。アニメがそういう普遍性を帯びていることを、そろそろわれわれは自信を持って認めるべきであろう。「あんなものは」^⑤「所詮はマンガ」。その種の感覚は根強く残っている。^⑥西欧文明にはとくにその傾向が強い。イスラムもそうかもしれない。なぜならかれらは、聖書やコーランを持っている。それはまさしく言葉で書かれているのである。

『方丈記』は日本風の哲学書である。しかし^⑦「^⑧したいの人はあれを哲学とはいわない。情感に満ちているからであろう。哲学は理屈だから、情緒が欠けているし、欠けて当然だと思っ

ていら

しい。それなら宮崎作品を思想だと思わないのも当然であろう。マルクス・エンゲルス全集のように、文字がいっぱい詰まって退屈でなければ、思想ではないと思っ

てい

る。それならデカルトに情感はないか。逆であ

ろう。たとえば『方法序説』は情感に満ちている。さすがに哲学者はそれがわかって

いるから、人によつてはあれを浪花節^{ななわがじ}と評するので

ある。

まとめてみれば、『千と千尋』の受賞がなぜ問題になるか、その背景には二つの事情がある。一つは多くの日本人、とくにいわゆるインターネットが、あれを「よいもの」と見ていいのか、その確信がないことである。もう一つは、そこへ欧州からの評価が先に来てしまったことである。いってみれば、幕末から明治にかけて、浮世絵だの大和絵^{やまとえ}だのよいものが、外国に出てしまったのと似たような現象であろう。自分が持っているもののよさは、あんがいわからないものである。

マンガはあれだけはやっているし、それだけにくだらないものを多く含んでいる。しかしそれは裾野^{すその}が広いということで、高い山は広い裾野を持つともいえる。こうした日本の視覚文化は、まだ基礎的な面からきちんと評価されていない。「足りない」ものばかりを、われわれは気にしてきたからであろう。

知的障害のある人たちに特異な才能が見つかることがある。日本ではそれは多くは画家として認められる。山下清を知らない人はあるまい。それに対して、音楽の、つまり聴覚の才能が発掘されたのは、大江光くらいではないだろうか。これは明らかに文化的なものと、私は思っている。いまでは音楽は、過去に比較して、はるかに一般化している。だから聴覚的な才能が、いわゆる知的障害者のなかに、もっと多く見つかつていいはずである。これほど音楽が普及してもそうならないとすれば、そこにはなにか、^⑧文化的障害がある。これも自分のことはわからないという、もう一つの典型であろう。それはなにも「欠点」とはかぎらない。かつて X がいったように、自分の首の後ろは見えない。見ようとすれば、首の骨を折る。

日本の視覚文化は、料理にも絵画にも表れている。それがなぜか、それこそ言葉にされたことはほとんどない。日本のアニメ、マンガは、鳥羽僧正^{とばそうじょう}の時代以来の伝統である。これは日本人のなかに、遺伝子として組み込まれているわけではないと思う。まさに文化なのである。その一つの背景は、文字だということがわかっている。

音訓読みというのは、きわめて妙なシステムである。アルファベット圏の人たちは、ほとんどこれを理解しない。日本人は中国語を日本語で読む。アメリカ人に英語でそんなことを言おうものなら、英語が下手だから、間違ったことをいっていると決めつけられてしまう。

しかし事実そうだといふしかないではないか。私は何度か、欧米のインテリに音訓読みを説明したことがある。たいていは、途中で横を向かれてしまった。そもそも日本語の読みを理解したところで、かれらにはなんの得もないのである。そんな破天荒なことは、放っておいたら、かれらはまず思いつかないはずである。

同様に、われわれは^⑪アルファベット世界の常識がわからない。たとえば英語を使うなら言葉の世界は二六文字で全部が書いてしまう。日本語なら、仮名だけで五〇音ある。その上に漢字が常用でも約二〇〇〇。どちらの世界が複雑か、すぐにわかるであろう。物理や化学では、世界は一〇〇あまりの原子でできているとする。こういう考えは、日本人の直観にはじつはほど遠いものである。放っておけば、つまりアルファベット圏の影響がなければ、日本人はまず原子論を立てないであろう。全世界がまさか有限の記号で書けるとは信じていないからである。アルファベットを使っていれば、そう思つて当たり前なのに。

文化の違いとは、ある意味では、これほど根元的なのである、それが結果的に脳の違いを形成する。その違いは生まれつきではない。つまり遺伝子の違いではない。なぜなら、後追ひとはいへ、アルファベット圏の思考を、われわれも理解するからである。日本のアニメを、かれらも理解するからである。^⑫ヒトの脳のもつとも重要な機能は、ひよつとして一般に思われているかもしれないように、個性的な思考をすることではない。普遍的、つまり根本的にはだれにでも通用する、そういう思考をすることなのである。下手な英語で「外人」と語り、話が通じたと喜んでゐる。それで「正しい」のである。重要なのは「通じる」ことだからである。それなら個性とはなにか。独創とはなにか。「通じない」ことか。

◇ドイツ人は日本人にバッハが理解できるか、という。日本人はアニメがドイツ人にわかるものかと思つてゐる。たがいにそれは、誤解に過ぎない。違う脳は、違う風に反応するかもしれない。しかし反応することに変わりはないのである。

問五^⑤ 西欧文明にはとくにその傾向が強いという理由を説明した
ものとして最も適切なものを次より選び、番号をマークし
なさい。

- ① 文字のみで語られることが無いアニメは文字で書かれる
ものたちに比べると文化と呼ぶには不十分であると考え
ているから。
- ② マンガは子供向けの娯楽であり、一般に広がりを持った
深さを備えた文化とはいえないものであるという意識が
あるから。
- ③ マンガはいまや日本が世界に誇る文化であるにもかかわ
らず、それを理解しない人々からの評価が非常に低いか
ら。
- ④ 文化の善悪は、聖書やコーランのような言葉によって語
られるものを基準としているという前提があるから。
- ⑥ ① ② ③ ④ ⑤ ⑥

問六^⑥ たいていの人が思う哲学書として最も適切なものを次より
選び、番号をマークしなさい。

- ① 『方丈記』
- ② 『マルクス・エンゲルス全集』
- ③ 『浪花節』
- ④ 『千と千尋』

問七^⑦ 宮崎作品を思想だと思わない理由として最も適切なものを
次より選び、番号をマークしなさい。

- ① 文字が詰まって退屈な情感に欠けるものこそ思想である
という考えから。
- ② 思想が貫かれた作品であっても、情感によって思想の重
みがなくなるから。
- ③ マンガやアニメというくだらない内容を含む作品に思想
は無いとみなすから。
- ④ 海外での評価が高くとも、国内においては子供向けの作
品であると考えから。

問八^⑧ 文化的障害とはどのようなことか最も適切なものを次より
選び、番号をマークしなさい。

- ① 文化的に未熟な面があるのは自分たちの意識の障害と捉
えているということ。
- ② 「足りない」ものにばかり意識が行き未来に希望が持て
なくなつたということ。
- ③ 自分の持っているものの良さに自ら気づくことができな
いということ。
- ④ 才能の発掘に西欧諸国の判断が必要であるという思い込
みがあるということ。

問九

X に入れるのに最も適切な明治・大正時代の文豪名を次の文章をもとに選び、番号をマークしなさい。

東京帝国大学在学中に人間のエゴイズムを表現したとされる『羅生門』を発表した。『鼻』は夏目漱石から大変高く評価され以後文壇にその名をとどろかせることとなった。

- ① 芥川龍之介 ② 太宰治
③ 森鷗外 ④ 宮沢賢治

問十

⑨ 事実そうだの指す内容を表したものととして最も適切なものを次より選び、番号をマークしなさい。

- ① 日本人は英語が下手であるために適当なことを言うというこ
うこと。
② 日本の視覚文化が料理や絵画に表れているということ。
③ 音訓読みをアルファベット圏の人々が理解しないこと。
④ 日本人は自国の言葉に変えて理解しているということ。

問十一

⑩ 破天荒の意味として最も適切なものを次より選び、番号をマークしなさい。

- ① 今まで誰も成し得なかったことをはじめて行うこと。
② 人前をはばかり勝負気ままに振る舞うこと。
③ 一般的、常識的な型や方法にはまらないこと。
④ 物事の是非や、結果を考えずに行動すること。

問十二

⑪ アルファベット世界の常識とはどういうことか、説明したものとして最も適切なものを次より選び、番号をマークしなさい。

- ① 全世界を表すものが二六文字のアルファベットであるという考え方。
② 世界の全ての言葉は二六文字で表現していく以外に方法はないという考え方。
③ 世界は全て有限の記号で書き表すことができるものであるという考え方。
④ 世界の全てを表すことができるものはこの世の中にはないという考え方。

問十三

⑫ ヒトの脳の最も重要な機能とはどのようなものか、説明したものとして最も適切なものを次より選び、番号をマークしなさい。

- ① 普遍性のある思考をすること。
② 異文化を深く理解すること。
③ 他言語の常識を理解すること。
④ 個性豊かな発想をすること。

問十四 ◇の段落が示す内容として最も適切なものを次より選び、番号をマークしなさい。

- ① 海外の音楽家が日本の音楽家より優れていると証明している。
 - ② 文化とは普遍的なものであるということの具体例を述べている。
 - ③ 海外の音楽が日本人に多大な影響を与えてきたことを検証している。
 - ④ 文化は人々の関係性を作る重要な要素であることの確認をしている。
-

問題は次頁に続く

三 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

四月になり、律は小学校に通い始めた。小学校は、一、二年が低学年、三、四年が中学年、五、六年が高学年という分け方になっている学校で、小学三年になった律は、クラス替えと同時に転入できるということになり、それは良かったと理佐は思った。

始業式の二日前に、あなたが今度転入する山下律さんのお姉さんと聞きました、とそば屋のお客さんに突然話しかけられて、この地区の女子の集団登校の集場所について教えられた。

浪子さんによると、その男の人は、そば屋が面している坂道を上がったところにある発電所に勤めている榊原さんという人で、律と同じ年の娘さんを男親の手だけで育てているとのことだった。週に二回ほど店を訪れては、いつも隅の席で静かに食事をして帰る巨漢の榊原さんは、どこか象を思わせるところがあった。新しく働き始めた理佐に、そば屋の常連さんたちは一応一通りの興味は示して、あれこれ話かけてくることもあったけれども、榊原さんはそれまで一度も理佐に個人的に話しかけたことはなかった。

小学校は、姉妹のアパートから理佐の脚で歩いて十五分、律の脚ではおそらく二十分ほどかかる場所にあつて、集団登校を実施してくれるというのは理佐にはありがたかった。前に住んでいたところでは、律は徒歩で十分ほどの小学校に通っていたし、理佐自身の通った小学校も、家から歩いて十分にも満たない場所にあつたので、小学校の行き帰りで二十分も歩くことになるということは想像もつかず、^①律に申し訳ない気持ちになった。

当の律は、まだ十分と二十分の差というものにまだ疎い様子で、そんなに遠いつていうんなら本を読みながら歩くかな、などと言っていたので、理佐は、交通事故に遭うから絶対にやめなさい、と固く注意した。

始業式の日、律は上の学年の子に引率されて登校し、午前中で帰ってきて、自宅で理佐が朝作った十枚切りのパン二枚にハムを一枚はさんだだけのハムサンドを食べ、春休み中の午後と同じように水車小屋に出かけた。それまでと違っていたのは、松ぼっくりを三つほど、ネネへのお土産にできたことだった。

「ガムテープの芯はなかなか手に入らないだろうし、ダンボールもそのへんにあるの持ってっちゃったらどうかなと思うんだけど、松ぼっくりならなんとかできると思つて」

しかし、その時律が持ってきたものは、新しく拾ったものではないようだった。ネネが遊んでいる松ぼっくりについて、外で拾ったのをあげていいかと律が杉子さんにたずねると、松ぼっくりを拾ったらず浪子さんの旦那さんの守さんに渡して茹でてもらつて、とのこ

とだったという。それで拾ったものを渡しに行くと、守さんは代わりに同じ数の松ぼっくりを律に渡してくれたそうだ。少し耳が悪い守さんに、どうして松ぼっくりをゆでるんですか!? と律が大声でたずねると、虫がいるからねー と守さんは同じぐらいの大きな声で答えてくれたと律は話していた。

新しい松ぼっくりをもらうと、ネネは鳥らしい歓声をあげてすぐにかじり始め、三十分ほどで食べればのほろほろにしまった。

守さんと松ぼっくりを交換した件について聞いたあと、寄り道したの? と理佐がたずねると、律は首を振って、そのへんに落ちてると言った。確かに、理佐の休みの日に二人で歩いてみた小学校までの道には、上の方に松林がある急斜面に面した道があった。都会育ちの理佐には想像もつかなかったような通学路で、何か律が危険な目に遭ったらと思うと気が気ではなかったのだが、このあたりの小学生はみんなそういう所を通って学校に行くのだ、それに事件があったという話を聞いたことはない、と浪子さんに言われてようやく納得した。

律によると、登校は集団登校だが、下校は土曜日のみ集団下校であるとのことだった。平日の下校は、できるだけ子供たち同士で帰るように、クラスの先生がそれとなく帰宅方向が同じ子同士でグループを組めるように、あの子と帰ったなら? あの子と帰る方向が一緒だよ、などと教室を出る時にいちいち提案してくれるらしい。律は、駅の近くの小さな分譲地に住む、片方が同じクラスの双子の女の子たちと帰ってきたという。どんな子たち? とたずねると、え、双子だから似てる、と律は、愚問を、という様子で訝しげに答えた。

みんなと仲良くできそう? と律にたずねながら、いや、なんか小学三年がされたくないぐいの子供扱いをしているかもな、と理佐は言い方を間違えたように感じた。律は案の定、少しむっとした顔をして、みんなと違っていいのはないんじゃないの? ちよつとはん囲が広すぎるよ、と反論した。

「気が合う合わないはあるものね」

「そうだよ」

前の小学校で律がどういう子供だったのか、理佐はほとんど知らなかった。いじめられているという話は聞かなかつたけれども、人気のある子供というわけでもなさそうで、おたんじょう会はやらなくていい、と母親に言っているところを去年見たことがある。理佐は小学四年までは誕生日会に行ったり、自分もやってもらったりしていたので、なんだか冷めたところのある子だなと思っていた。友達は、親しい子が数人だけはいたようで、理佐との引越しが決まった時はその子たちに手紙を書いていた。

「まあ、早く友達を作らないと」

「お姉ちゃんなのに、お母さんとか先生みたいなこと言わないでくれる？」

「それはそうか」

自分自身の小学校と中学校と高校の生活のことを考えると、友達に恵まれた学年もあればそうでない学年もあるので、あまりに『年かさの人間が小学生に言いそうなこと』ばかりをなぞっていると律に変な圧力をかけるかもな、と理佐は思い直した。

そうはいっても、子供は子供同士というだけで友達になれたりもするもので、慎重に期待しないように心がけていた様子の律にも、それらしき付き合いの相手はできた。それが、店にそばを食べにやってくる、榎原さんの娘さんだった。

ある日、短縮授業を終えて通常の時間割をこなすようになった律が、同年代の女の子を水車小屋につれてきた。その日は五時間目まで学校の授業がある日で、理佐の方が早く水車小屋に行っていた。女の子は、理佐に、こんなにちは、と硬い声で挨拶したかと思うと、すぐにラジオから流れるヘンデルのピアノ曲に聴き入っているネネに心を奪われた様子で見入っていた。律は、音楽を聴いているネネを尊重しているのか、何か話かけようと身構えている様子の女の子に向かって口元に人差し指を当てていた。

「曲が終わったらあいさつしよう」

「うん」

女の子は、ヘルメットのように切った短い髪に、緑一色のシャツを着て、くすんだ青色だがデニムというわけではないズボンを穿いていた。律が連れてきた友達らしき女の子、というだけで、理佐にはとてもかわいい子なのだが、それはおいておいて、なんだかおじさんが適当に合わせたような服装だな、と思った。自分自身も洗濯ができた頃から服を着ていて、べつにおしゃれなほうでもないのは

A としても。

彼女は、律に向かつて、この鳥、ものまねするんだよね？ とひそひそ話しかけていた。律が、そう、うまいよ、と少しいばるように言うと、でもピアノのまねはしないんだね、と返して、またネネに見入っていた。頭のいい子だな、と理佐は思った。そうじゃないと律の相手はつとまらないのかもしれないけれども。

ちなみに律は、最初の日に一緒に下校した双子とは、「話が合わない」という。双子は双子の間の話しかしないし、他人にまったく興味がなく困る、と律は大人が苦言を呈するように言っていた。

曲が終わると、やつと律は彼女をネネの目の前に押し出して、ひろみちゃんだよ、と言った。

「ひ、ろ、む、む、むい……ちゃん！」

どもりながら口の中で音声を転がしているにもかからわず、ネネはまるで、天国の奥で座って待ち受けている神様か何かのような威厳を漂わせて、止まり木から軽く身を乗り出しながら「ひろみちゃん」と覗き込んだ。言いにくければひーちゃんです、と律に「ひろみちゃん」と紹介された彼女は丁寧言い直して、律は、ネネ、ひーちゃん！ とさらに簡単に訂正した。

「ひーちゃんだって！」

「ひーちゃん！」

「ひーちゃん！」

そちらのほうは言いやすかったのか、ネネはすぐに、ひーちゃん、ひーちゃん、と連呼し始めた。得意な発音を何度も言つて羽をばたつかせたり体を左右に動かしたりするネネよりも、苦手な言葉を克服しようとおずおずと真剣に繰り返すネネのほうが偉いように見えたことが、理佐には興味深かった。

ひろみちゃん、手出して、これネネにあげて、と律はキュロットのポケットからどんどん松ぼっくりを出して彼女の手においていった。ネネは、おー、おー、おー、と低く鳴きながら、貢ぎ物を検分するように「ひろみちゃん」の両手の中の松ぼっくりを覗き込んだ。そして、一つ摘んで口にくわえたかと思うと、上を向いてくちばしの前後に移動させながら、満足げにかじり、今度は台の上に飛び移つて吐き出し、熱心につつき始めた。

（津村記久子『水車小屋のネネ』）

問一

A にあてはまる慣用句として最も適切なものを次より選び、番号をマークしなさい。

- ① 肝に銘ずる
- ② 言うに事欠く
- ③ 棚に上げる
- ④ 色を失う

問二

① 律に申し訳ない気持ちになったとあるが、何を申し訳ないと思ったのか。最も適切なものを次より選び、番号をマークしなさい。

- ① 小学校周辺の下調べが足りなかったこと。
- ② 律が小学生であると考慮してあげなかったこと。
- ③ 徒歩でかかる時間を自分基準で考えていたこと。
- ④ 律の通学の所要時間に考えが及ばなかったこと。

問三

② 気が気ではなかったの意味として最も適切なものを次より選び、番号をマークしなさい。

- ① 落ち着かない
- ② 身にこたえる
- ③ ひどく苦しむ
- ④ うろたえ騒ぐ

問四

③ いちいち提案してくれるらしいという表現から、どのようなことがわかるか。最も適切なものを次より選び、番号をマークしなさい。

- ① それとなくグループを組めるよう促す先生の親切心が裏目に出て、わざとらしく見えているということ。
- ② 帰宅方向が同じ子同士は互いの住所を把握しているため、先生に促されずとも一緒に帰れるということ。
- ③ 帰宅方向が同じ子同士と一緒に帰れるようにとの配慮でありながら、同時にお節介でもあるということ。
- ④ それとなくグループが組めるよう先生に声をかけてもらえるのは、生徒にとってありがたいということ。

問五

④ 案の定、少しむっとした顔をしてとあるが、どのようなことか。最も適切なものを次より選び、番号をマークしなさい。

- ① 律が友達と仲良くできないことを指摘し、悲しませたということ。
- ② 質問が的を射ておらず、律の機嫌をそこねてしまったということ。
- ③ 律にとって不都合な質問だったため、余裕を失わせたということ。
- ④ 毒にも薬にもならない助言をして、律をとまどわせたということ。

問六 ⑤ 冷めたところのある子だなとあるが、理佐はなぜそのように思ったのか。最も適切なものを次より選び、番号をマークしなさい。

- ① 律は学校で自分が人気であっても思い上がっていなかったから。
- ② 律が誕生日会をしてもらっていたのは小学四年までだったから。
- ③ 律が手紙を書くほどの親しい友人が数人はいたようだったから。
- ④ 律は小学生なら喜びそうなことにも興味がなさそうだったから。

問七 ⑥ 律に変な圧力をかけるかもな、と理佐は思い直したとあるが、圧力の内容として最も適切なものを次より選び、番号をマークしなさい。

- ① 友達はいた方がいいなど月並みの学生像を強いてしまうということ。
- ② 理佐と同じような人生の送りがたを律もするべきであるということ。
- ③ 律のことを思いやって言うこと自体が押しつけがましいということ。
- ④ 理佐が律に対し抱いている多大な期待にこたえてほしいということ。

問八 ⑦ 頭のいい子だな、と理佐は思ったとあるが、理由として最も適切なものを次より選び、番号をマークしなさい。

- ① ネネに話しかけたい気持ちがあったものの律の制止にきちんと従っていたから。
- ② 頭のいい子じゃないと年齢のわりに冷めた性格である律の相手はできないから。
- ③ 他の人がなんとなく素通りしてしまいそうなことに自然と気がついていたので。
- ④ 少し観察しただけでネネがものまねをすることができると見抜いていたから。

問九 ⑧ 大人が苦言を呈するように言っていたとあるが、どのように言っていたのか。最も適切なものを次より選び、番号をマークしなさい。

- ① 余裕のある態度で、うらやんでいる気持ちが表れないように。
- ② 冷静な態度で、相手に耳の痛い注意だと感じさせないように。
- ③ 子供らしからぬ態度で、相手の悪いところを指摘するように。
- ④ 偉そうな態度で、伝えることに意味がないと同情するように。

問十^⑨

まるで、天国の奥で座って待ち受けている神様か何かのような威厳を漂わせてとあるが、ここで使用されている表現技法として最も適切なものを次より選び、番号をマークしなさい。

- ① 直喩 ② 隠喩 ③ 擬音語 ④ 体言止め

問十一^⑩

理佐には興味深かったとあるが、どのようなことか。最も適切なものを次より選び、番号をマークしなさい。

- ① ネネの努力する立派な姿勢に感服して、自分のなかに焦りの気持ちがあったということ。
 ② ネネのひたむきに努力する姿を立派に思ったことで、自身の価値観を認識したということ。
 ③ ネネに得意なことがあることがうれしく、立派だと称賛したい気持ちになったということ。
 ④ ネネのことを立派だと感じた自分に気づき、鳥と人を同等にみる自分に驚いたということ。

問十二

本文の内容に合致しないものとして最も適切なものを次より選び、番号をマークしなさい。

- ① 律が松ぼっくりを拾っていたのは、そば屋の水車小屋にいるネネというしゃべる鳥のためである。
 ② 律は姉の理佐に比べると冷めたところがある小学生だったが、前の小学校で友人が少しはいた。
 ③ ひろみの父親は理佐の働くそば屋の常連だが、始業式の直前まで理佐と話したことはなかった。
 ④ ひろみは理佐と初めて会ったとき、明るく元気な声で挨拶をしたあとネネに興味津々であった。

問題は次頁に続く

四 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

今は昔、右近少将藤原義孝といふ人ありけり。形、有様より始めて、心ばへ、身の才、みな人にすぐれてなむありける。また、道心なむ深かりけるに、いと若くして失せにければ、親しき人々嘆き悲しみけれども、^①かひなくてやみにけり。

しかるに、^②失せてのち、十月ばかりを経て、賀縁といふ僧の夢に、少将、^③いみじく心地よげにて笛を吹と見るほどに、ただ口を鳴らすになむあり。X。賀縁これを見て言はく、「母のかくばかり恋ひ給ふを、いかにかく心地よげにておはするぞ。」と言ひければ、少将答ふことはなくして、かくなむよみける。

^④しぐれにはちぐさの花ぞ散りまがふなにあふるさとの袖濡らすらむ

〔今昔物語集〕

問一

形、有様より始めて、いと若くして失せにければの現代語訳として最も適切なものをそれぞれ次より選び、番号をマークしなさい。

形、有様より始めて

- ① 性格や心のあり様をはじめとして
- ② 顔立ちや容姿をはじめとして
- ③ 見た目や身分の高さをはじめとして
- ④ 身だしなみや礼儀をはじめとして

いと若くして失せにければ

- ① たいそう若くして死んでしまったので
- ② やや若くして亡くなってしまったので
- ③ とても若くして両親を失ってしまったので
- ④ 非常に若くして失そうしてしまったので

問二

かひなくてやみにけりについて説明したものととして最も適切なものを次より選び、番号をマークしなさい。

- ① どうにかして藤原義孝を救おうとする人ばかりであったということ。
- ② 藤原義孝のためにかしてくる人物がいなかったということ。
- ③ 親しい人たちは藤原義孝に対してどうすることもできなかったということ。
- ④ 藤原義孝は親しき人々の心配した通りに病になってしまったということ。

問三

失せてのち、十月ばかりを経ての主語として最も適切なものを次より選び、番号をマークしなさい。

- ① 藤原義孝
- ② 親しき人々
- ③ 賀縁
- ④ 賀縁の母

問四

いみじく心地よげにてとあるがこのような状態にいる理由として最も適切なものを次より選び、番号をマークしなさい。

- ① 夢に現れるという体験が新鮮だったから。
- ② 賀縁の母への愛情がとて深かったから。
- ③ 親しき人々の悲しみが深かったから。
- ④ 生前に仏教への信仰心が厚かったから。

問五

X に入る語の活用形は何形になるかを次より選び、番号をマークしなさい。

- ① 未然形
- ② 連用形
- ③ 終止形
- ④ 連体形
- ⑤ 已然形
- ⑥ 命令形

問六

しぐれにはちぐさの花ぞ散りまがふの意味として最も適切なものを次より選び、番号をマークしなさい。

- ① 時雨が降るころになると様々な花が散ってしまう。
- ② 時雨が降るように美しい花々が散り乱れている。
- ③ 時雨が降るころにも花が咲き悲しい気持ちになる。
- ④ 様々な花が咲くように、悲しいこともそれぞれだ。

問七

「今昔物語集」のジャンルとして最も適切なものを次より選び、番号をマークしなさい。

- ① 随筆
- ② 日記
- ③ 歌物語
- ④ 説話